

## 「鉄と鋼」特集号原稿募集案内

## テーマ：転炉機能の拡大

原稿締切日 平成 2 年 3 月 9 日

最近の転炉製鋼法は、溶銑予備処理の大幅な導入と複合吹錬の確立により、大変革を遂げてきました。また、炭材装入と炉内の強攪拌を利用した鉄浴式溶融還元やスクラップ溶解も実用化の域に迫っています。そこで、現在の転炉製鋼技術に関する研究および技術開発の成果を収録しておくことは有意義と考え、本特集号を企画いたしました。内容としては、

- (1) 転炉操業を活かすための溶銑予備処理
- (2) 予備処理溶銑を用いたクロム鉍石およびマンガン鉍石の利用や、スクラップ溶解等の新しい転炉の使い方
- (3) 予備処理銑を用いた転炉操業と 2 次精錬を組み合わせた高純度鋼の溶製
- (4) 吹錬制御技術
- (5) スラグ-メタル間平衡、速度論、攪拌理論、底吹き技術、センサー利用、2 次燃焼等の関連する理論および要素技術

を考えております。基礎研究から操業実績まで、幅広く論文および技術報告の投稿をお願いいたします。

1. 原稿締切日 平成 2 年 3 月 9 日 (金)
2. 発行 「鉄と鋼」 Vol. 76 No. 11 (平成 2 年 11 月号)
3. 原稿枚数 論文および技術報告とも刷り上り 8 ページ以内 (表, 図, 写真を含めて本会原稿用紙 40 枚以内)
  - (注)・原稿は本会投稿規程に基づいて執筆して下さい。
  - ・投稿された論文は編集委員会において審査されます。
4. 問合せ・原稿送付先
  - 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
  - (社)日本鉄鋼協会 編集課 特集号係 電話 03-279-6021(代)
  - (注) 投稿時、原稿表紙に「転炉機能の拡大特集号」と朱書して下さい。

## 編集後記

複合材料特集号ができました。日本鉄鋼協会の春、秋季の講演大会で、複合材料に関する研究を自身の狭い思いをせずに発表できるようになったのは 1986 年 111 回春季講演大会に萌芽・境界技術部門が新設されてからであります。日本鉄鋼協会編集委員会の中に MP 委員会が新設され、萌芽・境界技術部門の指定テーマとして「複合材料・セラミックス」が登場してからですから約 3 年を経過したことになります。

鉄鋼業の低成長時代から量的には若干減産をよぎなくされながらも技術の高度化と、一方では全く新しい材料の創製、開発のため、弛まぬ努力をされております会員、非会員の皆様方から多くの御投稿をいただきまして特集号を完成することができましたことに深く敬意を表します。

本特集号は、炭素繊維 (Carbon Fiber)、材料設計 (Design)、界面挙動 (Interface Phenomena)、Al 合金基複合材料 (Aluminum Matrix Composites)、耐熱

合金基複合材料 (High Temperature Composites)、粒子強化複合材料 (Particulate Composites)、積層複合材料 (Clads and Laminates)、複合材料の評価 (Strength and Fracture Evaluation)、応用 (Applications) から構成されております。その特徴は強化素材に関する基礎的研究、材料設計に必要な基礎研究、複合材料にとって最も特性を左右すると考えられる界面挙動に関する論文から評価、そして応用に至る広い範囲にわたっており、現在の我が国における複合材料研究の先端レベルが集約されているといえましょう。今後ともこの分野および周辺分野の学術、技術の向上のため会員諸兄の御健闘をお祈り致します。

御投稿いただきました著者の方々には短期間に、再読み直し、誤字、脱字等の修正に御協力いただき、順調に審査が進み今日に至ったものと思っております。これからも多数の御投稿をいただき日本鉄鋼協会の活性化に御協力いただければ幸いです。 (A. O.)